

2-3 安全でおいしい水の安定供給に向けた取組

(1) 通常の浄水処理に加えて高度浄水処理導入の認知度

問 水道局では、通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理を導入していますが、ご存知ですか。

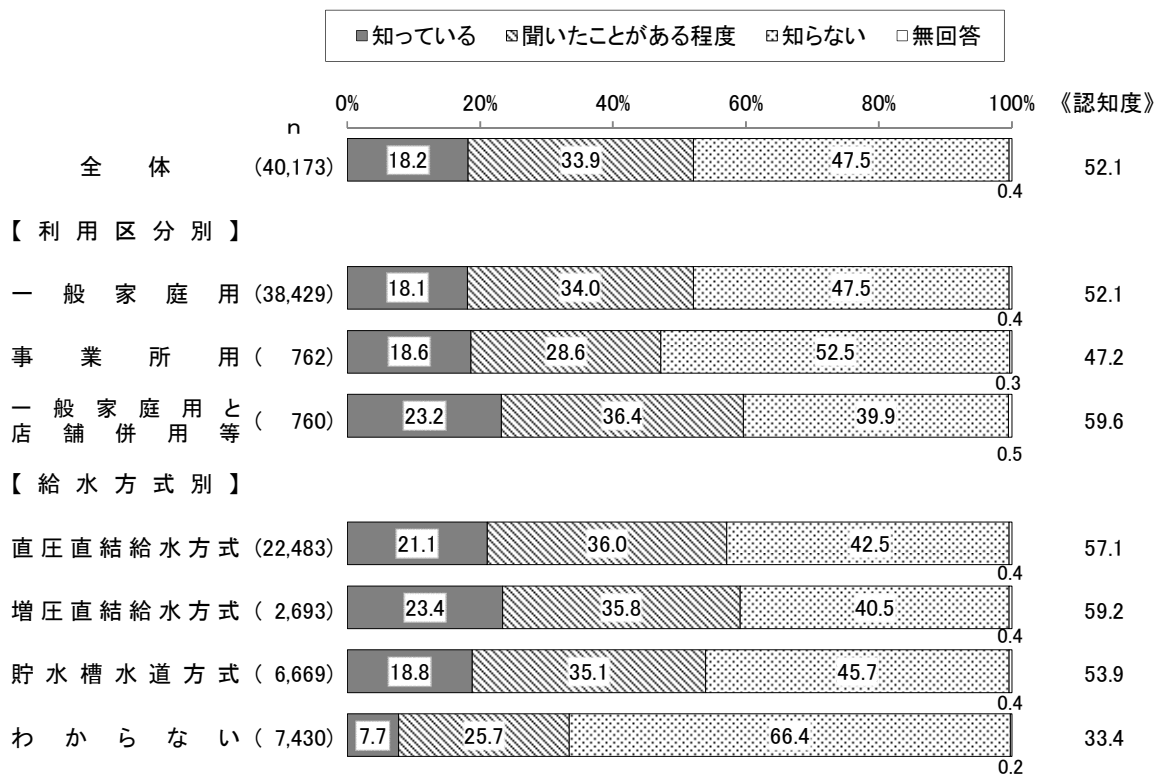
- 1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

[A : 問 11]

[調査結果]

① 通常の浄水処理に加えて高度浄水処理導入の認知度（利用区分別、給水方式別）

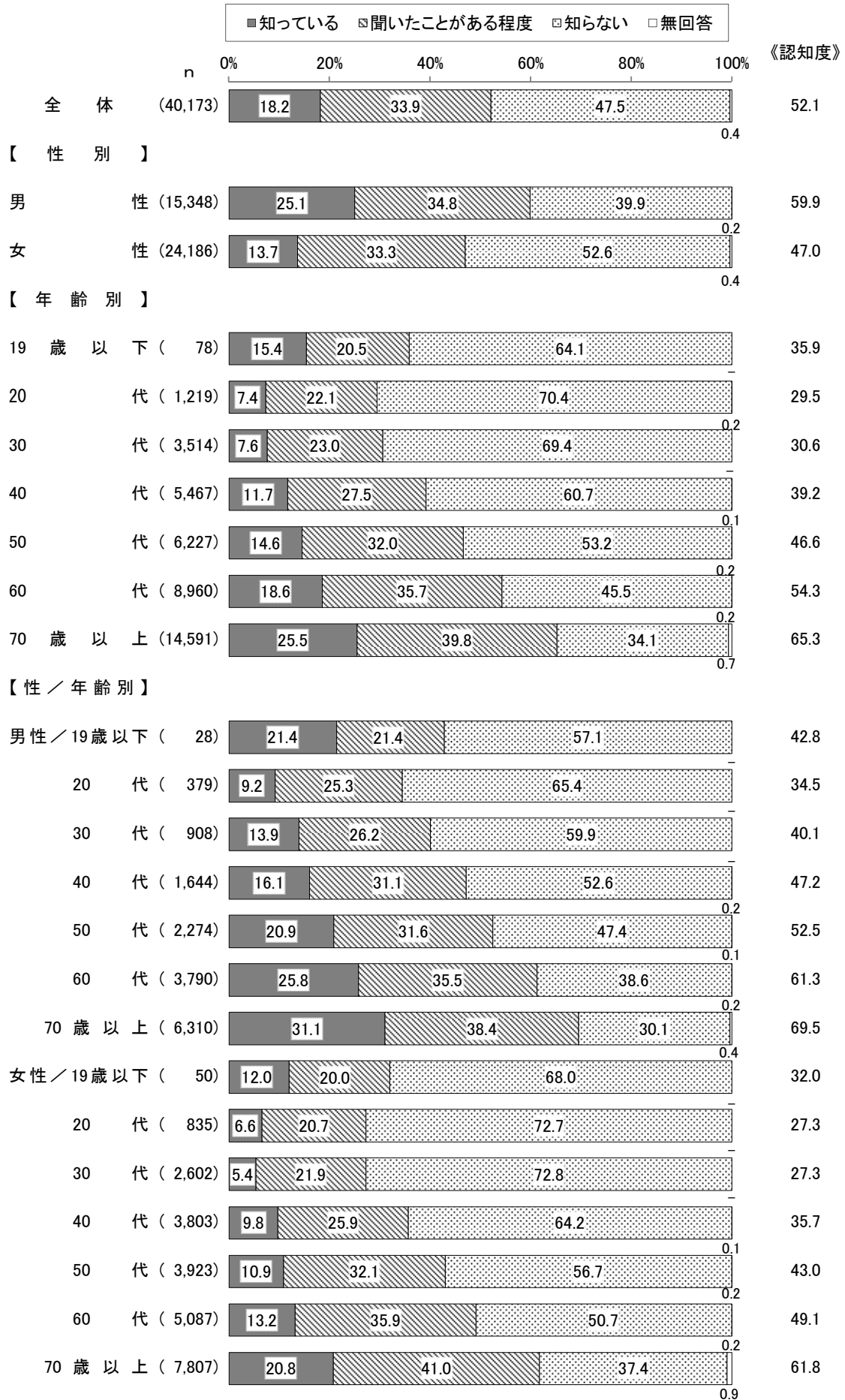
〈図表 2-3-1〉



<特徴>

- 全体で見ると、「知らない」が47.5%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が33.9%で、「聞いたことがある程度」と「知っている」(18.2%)を合わせた《認知度》は52.1%となっている。
- 利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で59.6%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《認知度》は、増圧直結給水方式で59.2%と最も高くなっている。

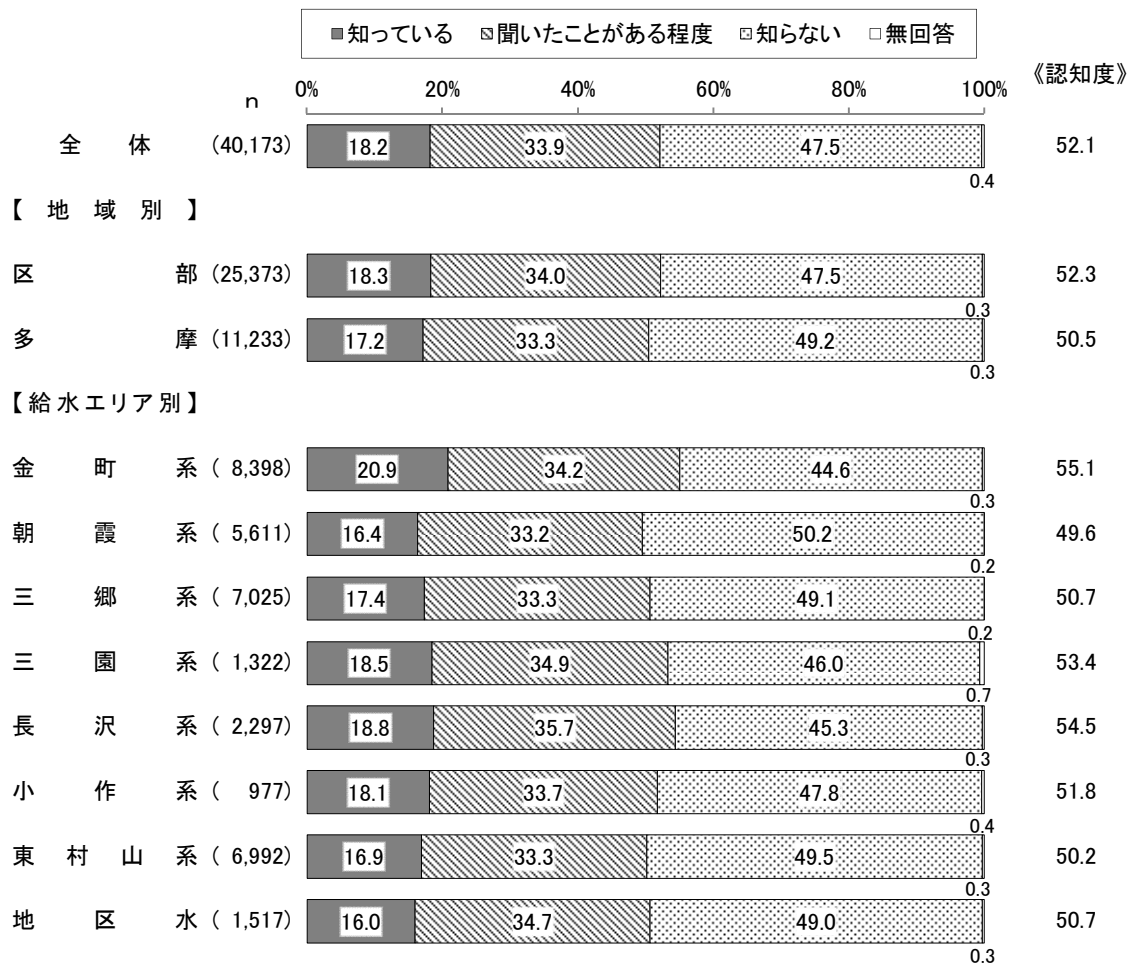
② 通常の浄水処理に加えて高度浄水処理導入の認知度（属性別）〈図表 2-3-2〉



<特徴>

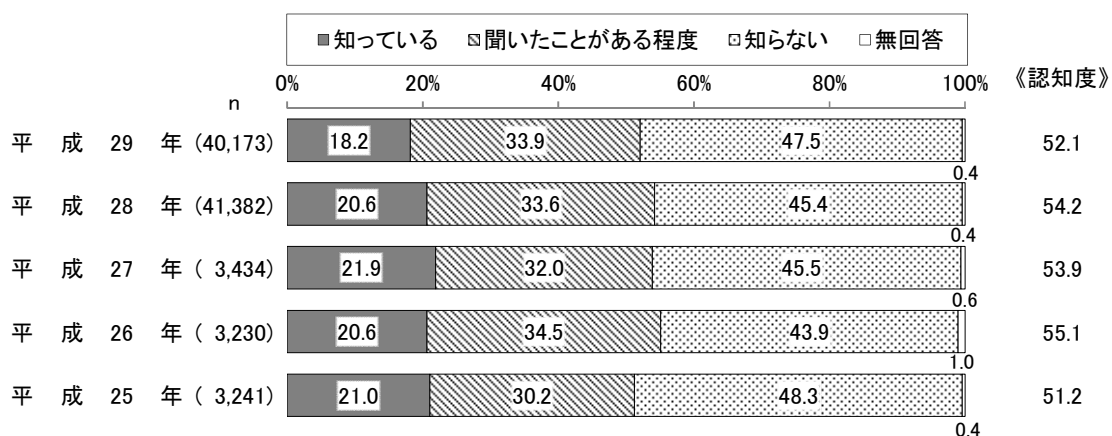
- 性別では、《認知度》は、男性（59.9%）の方が女性（47.0%）より12.9ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、20代（29.5%）で3割を下回っているが、年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（65.3%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、女性の20代と30代（それぞれ27.3%）で3割を下回って最も低くなっている。男女ともにおおむね年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（男性：69.5% 女性：61.8%）で最も高くなっている。

③ 通常の浄水処理に加えて高度浄水処理導入の認知度（地域別、給水エリア別）〈図表2-3-3〉



- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、金町系（55.1%）で最も高く、次いで、長沢系（54.5%）となっている。

④ 通常の浄水処理に加えて高度浄水処理導入の認知度（時系列：全体）〈図表 2-3-4〉



<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》は5割台半ば近くで推移している。

(2) 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

問 水道局では、地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保に取り組んでいます。ご存じですか。

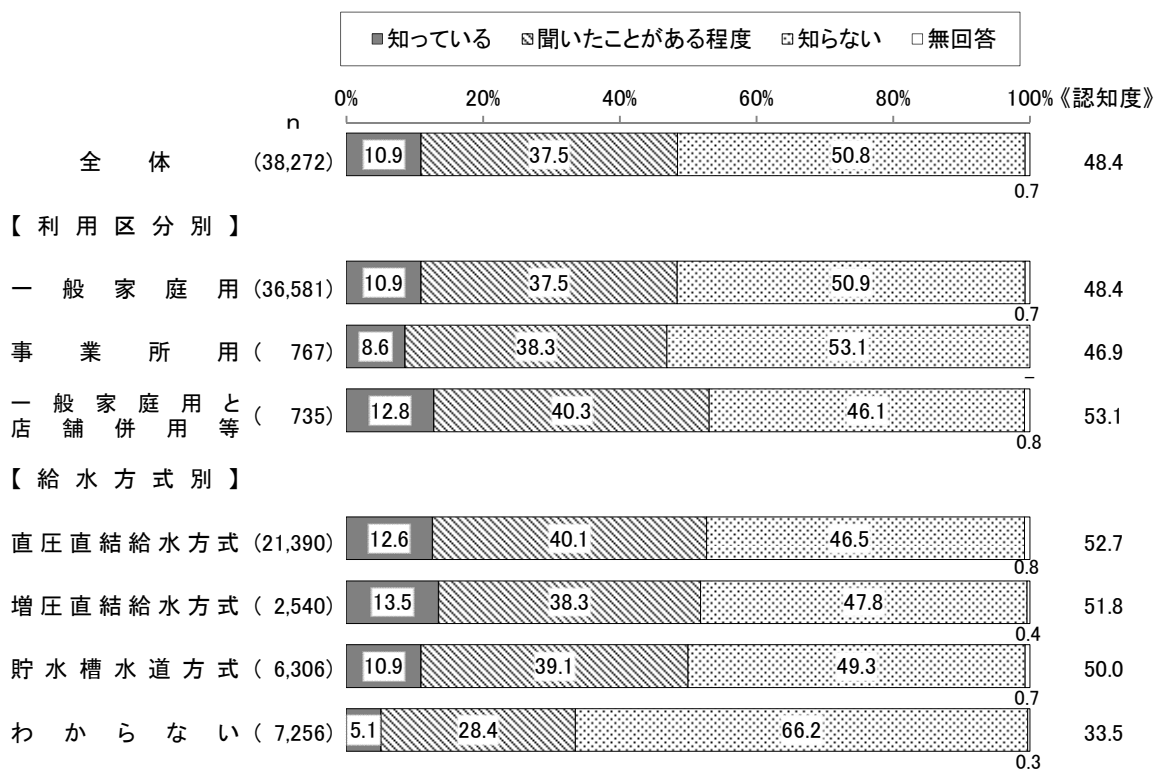
- 1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

[B : 問 12]

[調査結果]

① 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

(利用区分別、給水方式別) <図表 2-3-5>

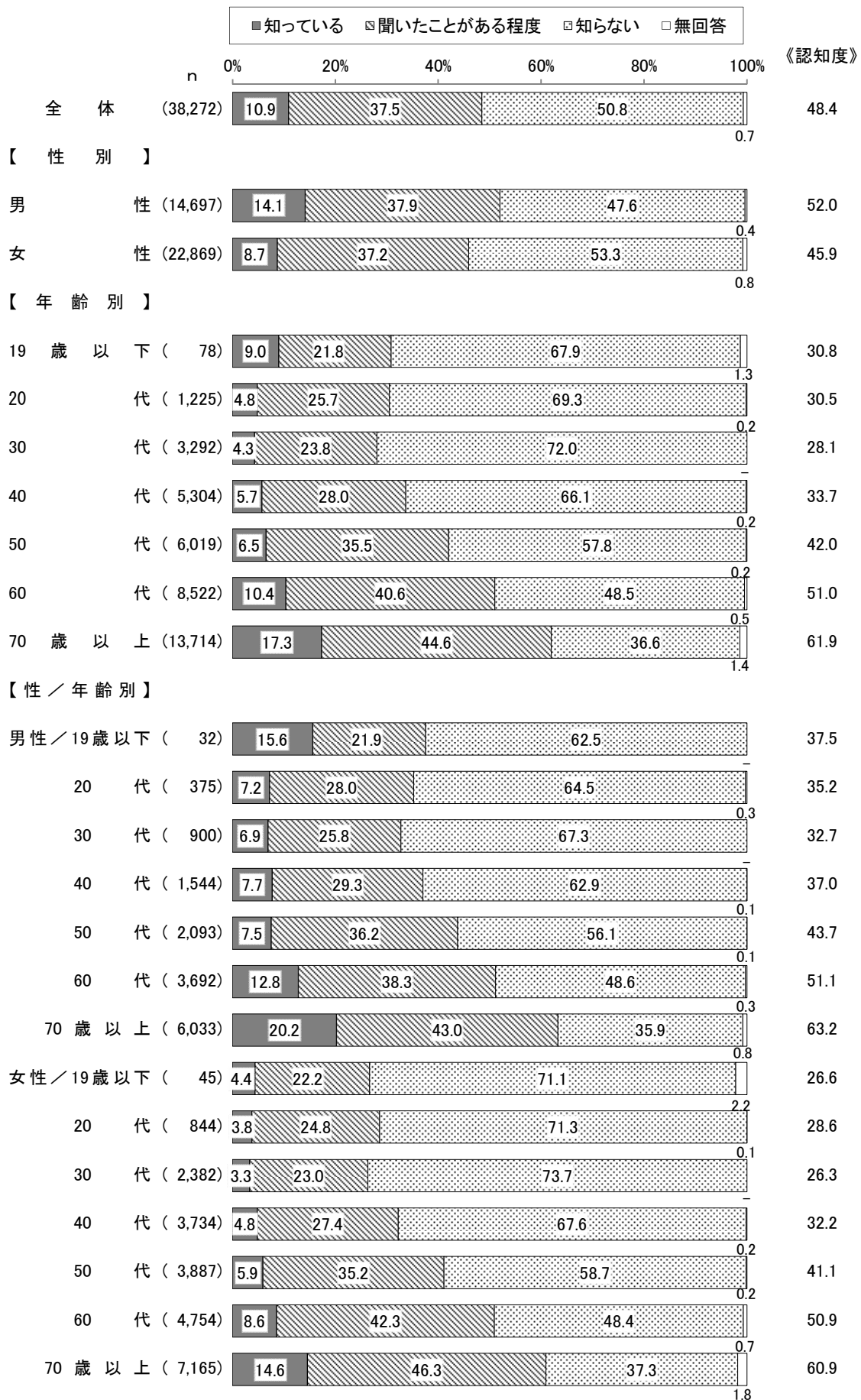


<特徴>

- 全体で見ると、「知らない」が50.8%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が37.5%で、「聞いたことがある程度」と「知っている」(10.9%)を合わせた《認知度》は48.4%となっている。
- 利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で53.1%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《認知度》は、直圧直結給水方式で52.7%と最も高くなっている。

② 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度（属性別）

〈図表2-3-6〉

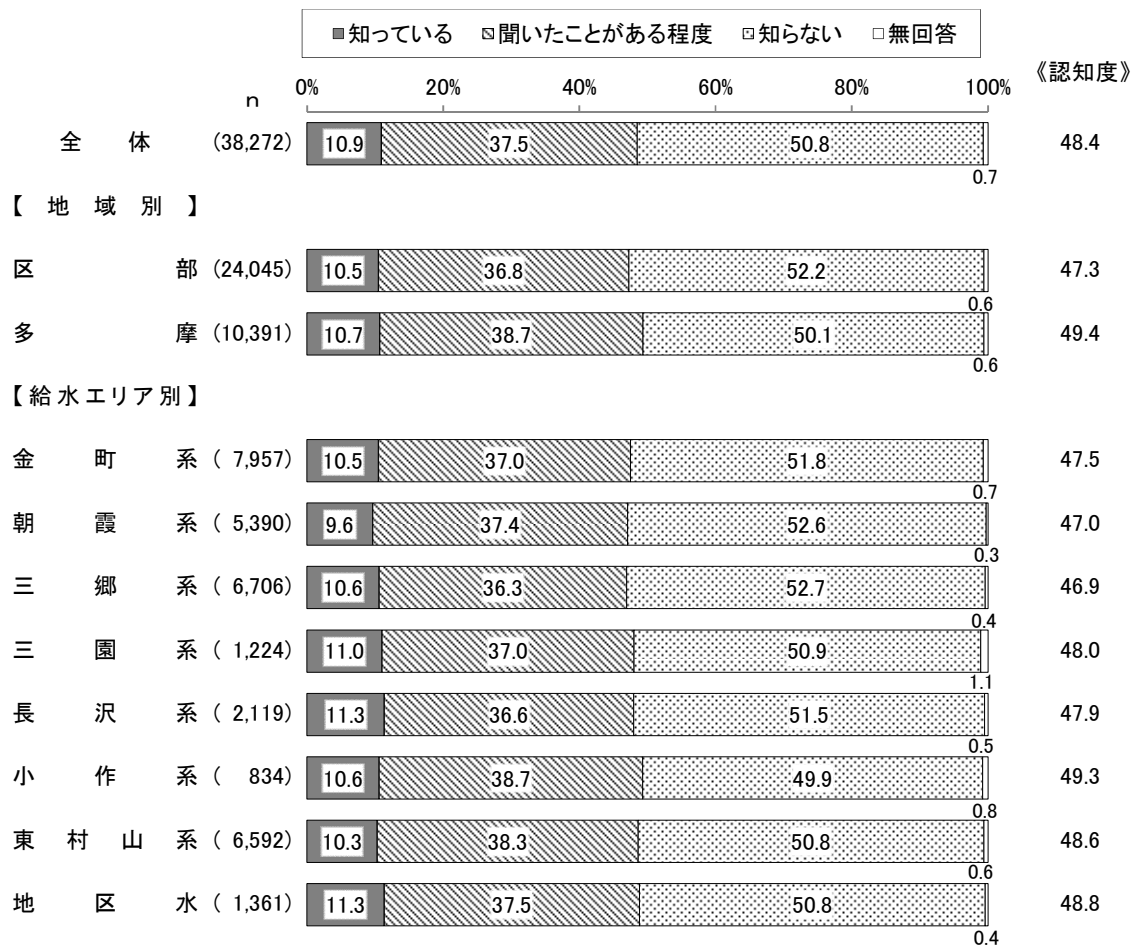


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（52.0%）の方が女性（45.9%）より6.1ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、30代（28.1%）で3割を下回り、40代以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（61.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女とも30代（男性：32.7% 女性：26.3%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（男性：63.2% 女性：60.9%）で最も高くなっている。

③ 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

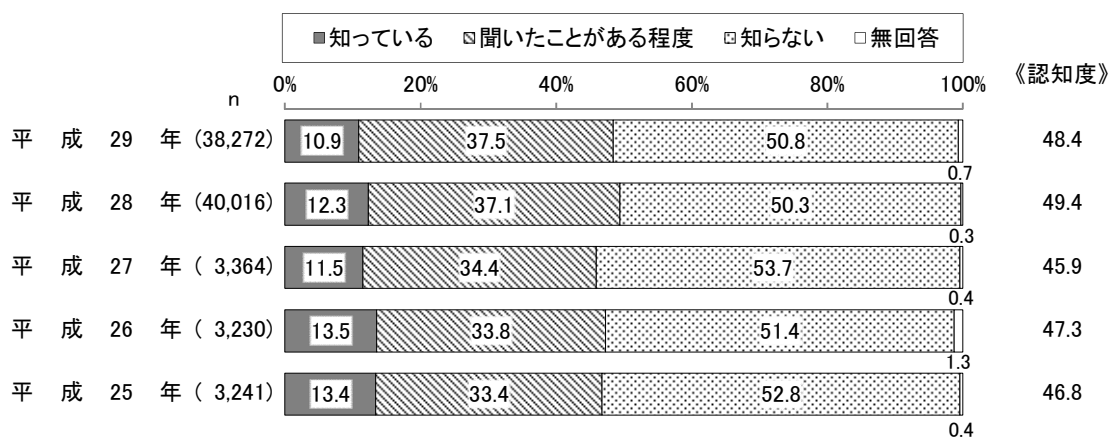
（地域別、給水エリア別）〈図表2-3-7〉



- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、小作系（49.3%）が最も高くなっている。

④ 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度（時系列：全体）

〈図表 2-3-8〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向では、《認知度》は4割台半ばから5割近くに増加傾向となっている。

(3) 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

問 水道局では、雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理に取り組んでいますか、ご存知ですか。

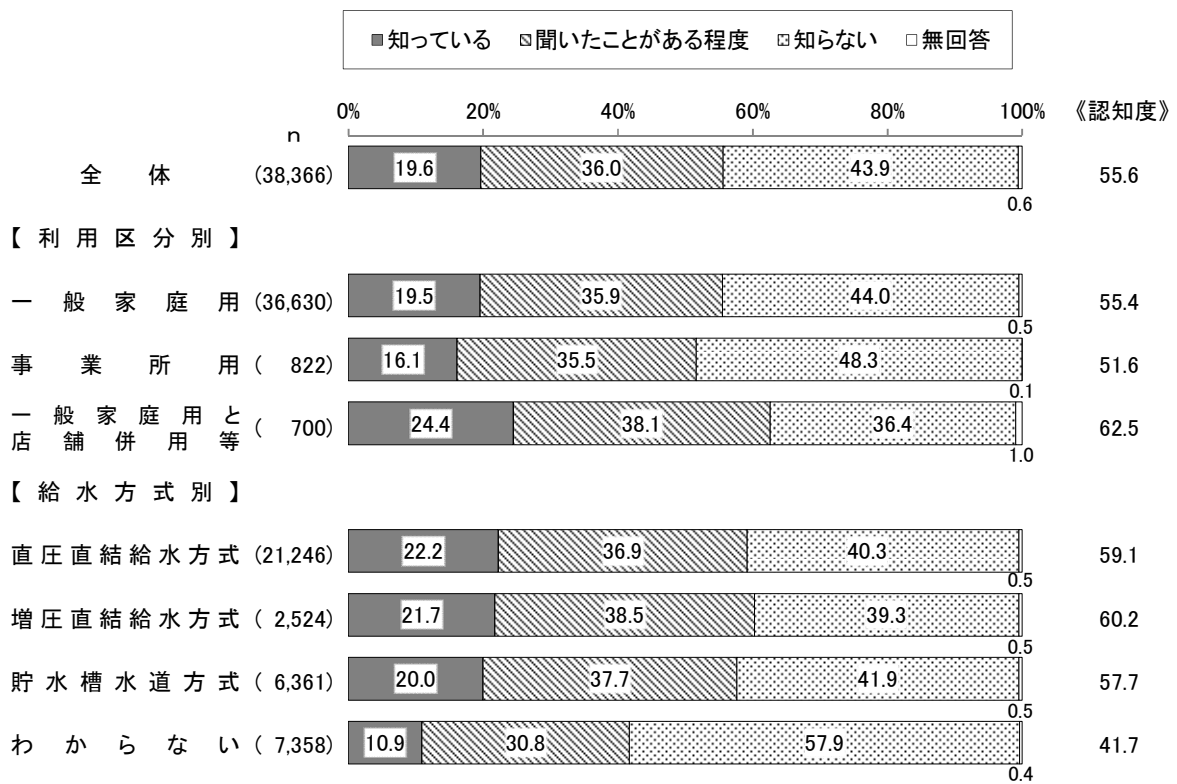
- 1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

[C : 問 12]

[調査結果]

① 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

(利用区分別、給水方式別) <図表 2-3-9>

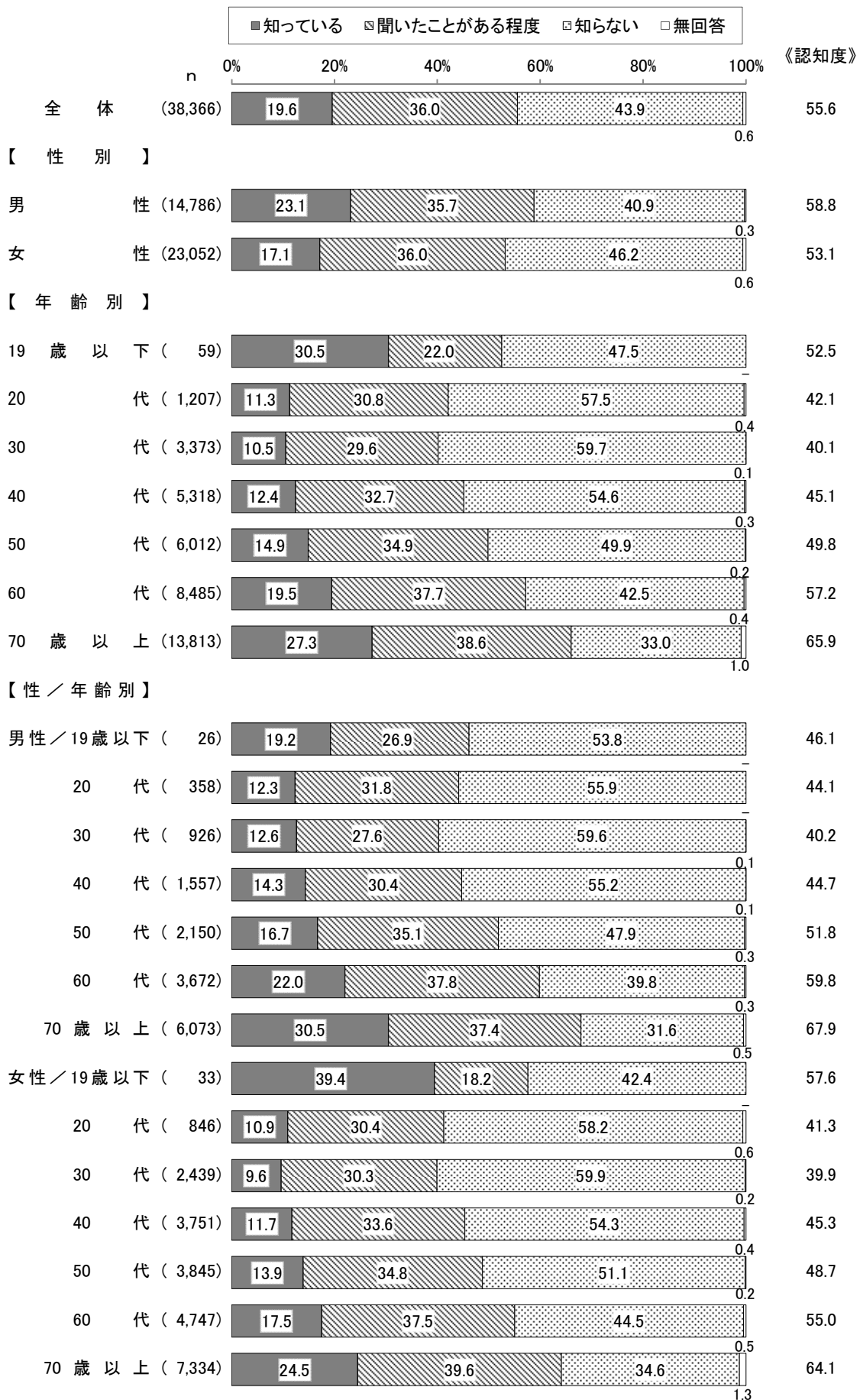


<特徴>

- 全体でみると、「知らない」が43.9%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が36.0%で、「聞いたことがある程度」と「知っている」(19.6%)を合わせた《認知度》は55.6%となっている。
- 利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で62.5%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《認知度》は、増圧直結給水方式で60.2%と最も高く、次いで、直圧直結給水方式が59.1%となっている。

② 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

(属性別)〈図表2-3-10〉

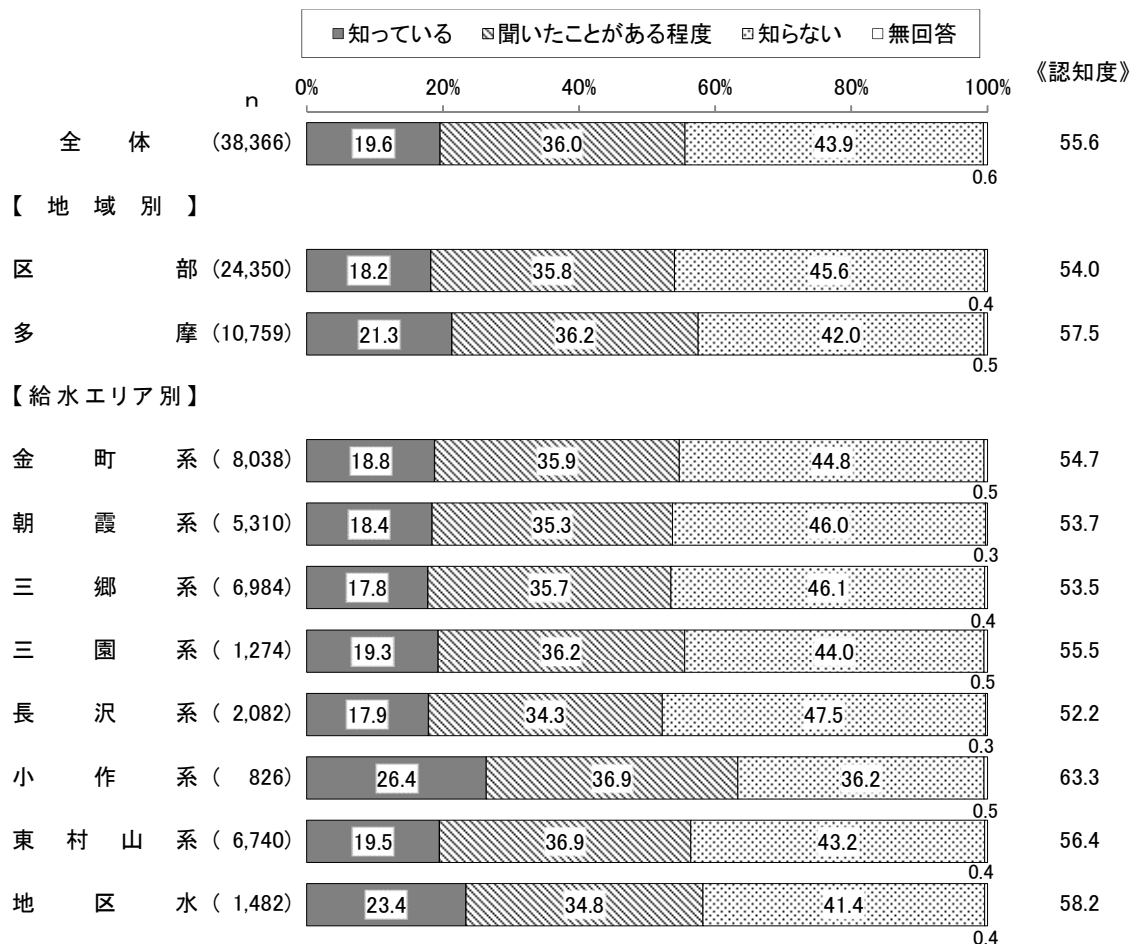


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（58.8%）の方が女性（53.1%）より5.7ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、30代（40.1%）で低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（65.9%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女とも30代（男性：40.2% 女性：39.9%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、男女とも70歳以上（男性：67.9% 女性：64.1%）で最も高くなっている。

③ 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

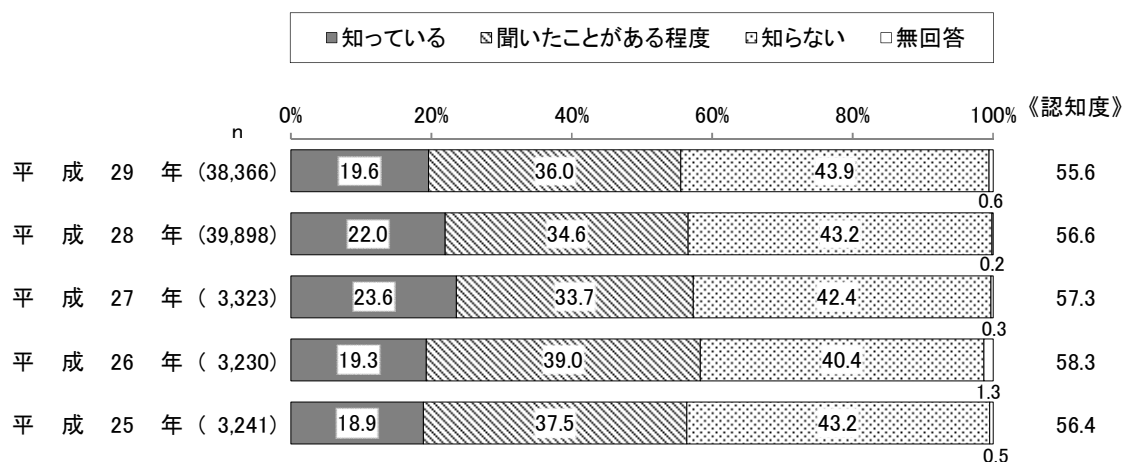
（地域別、給水エリア別）〈図表2-3-11〉



- 地域別では、《認知度》は、多摩（57.5%）が区部（54.0%）より3.5ポイント高くなっている。
- 給水エリア別では、《認知度》は、小作系（63.3%）で最も高くなっている。

④ 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

(時系列：全体)〈図表2-3-12〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》は5割台半ばで推移している。

(4) 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無

問 最近「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことがありますか。

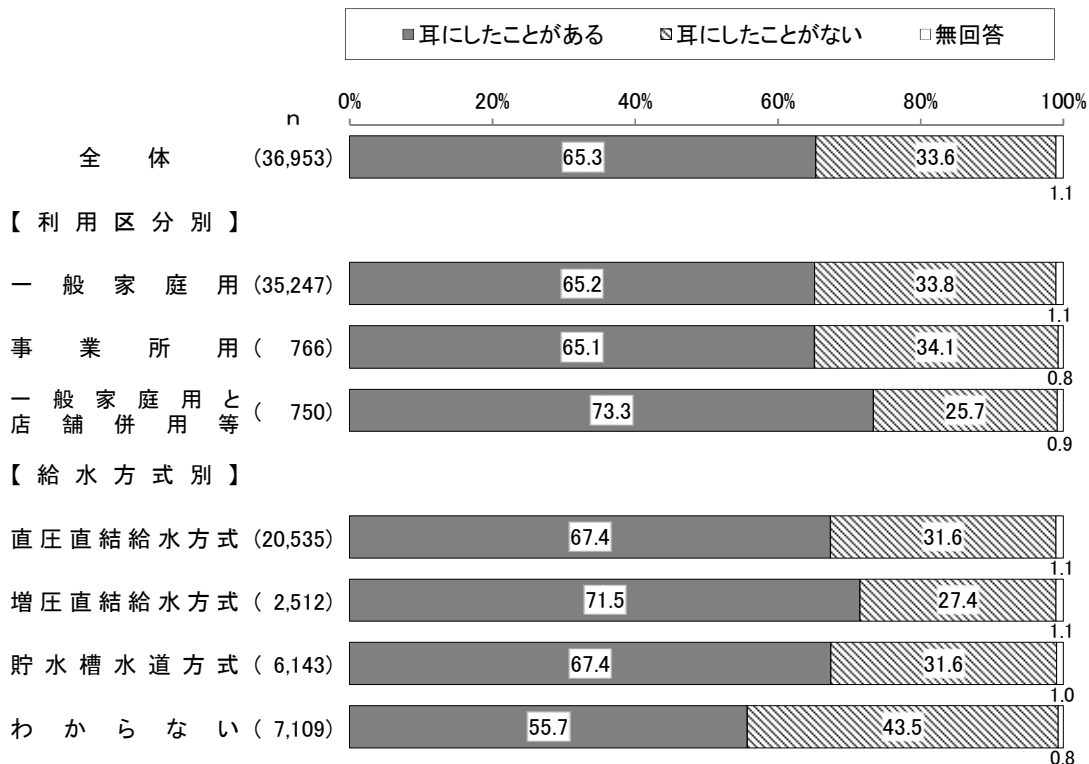
- 1) 耳にしたことがある 2) 耳にしたことがない

[D : 問 11]

[調査結果]

① 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（利用区分別、給水方式別）

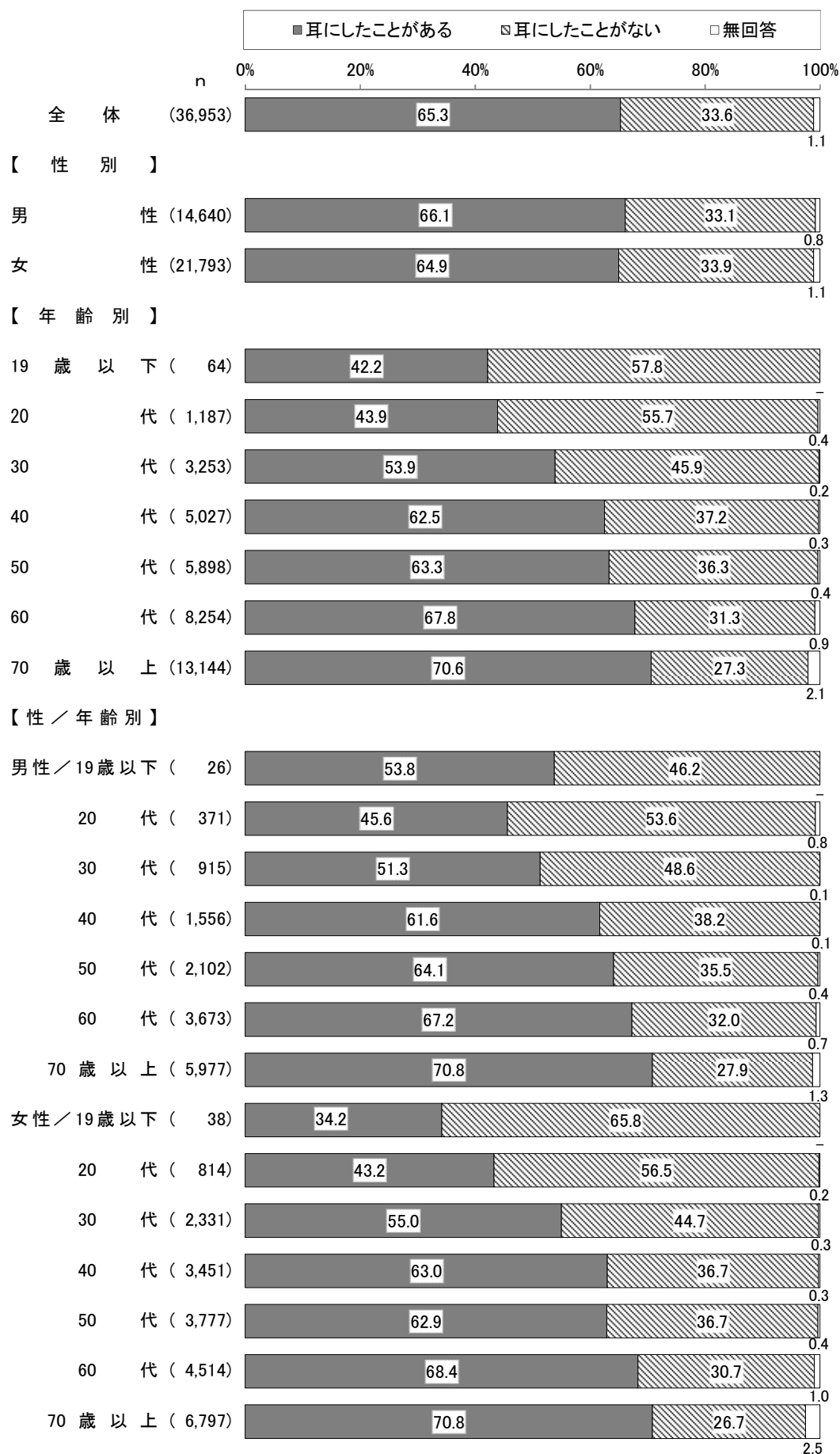
〈図表 2-3-13〉



<特徴>

- 全体で見ると、「耳にしたことがある」が65.3%で、「耳にしたことがない」(33.6%)より高くなっている。
- 利用区分別では、「耳にしたことがある」は、一般家庭用と店舗併用等で73.3%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「耳にしたことがある」は、増圧直結給水方式で71.5%と最も高く、次いで、直圧直結給水方式と貯水槽水道方式がともに67.4%となっている。

② 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（属性別）〈図表2-3-14〉



<特徴>

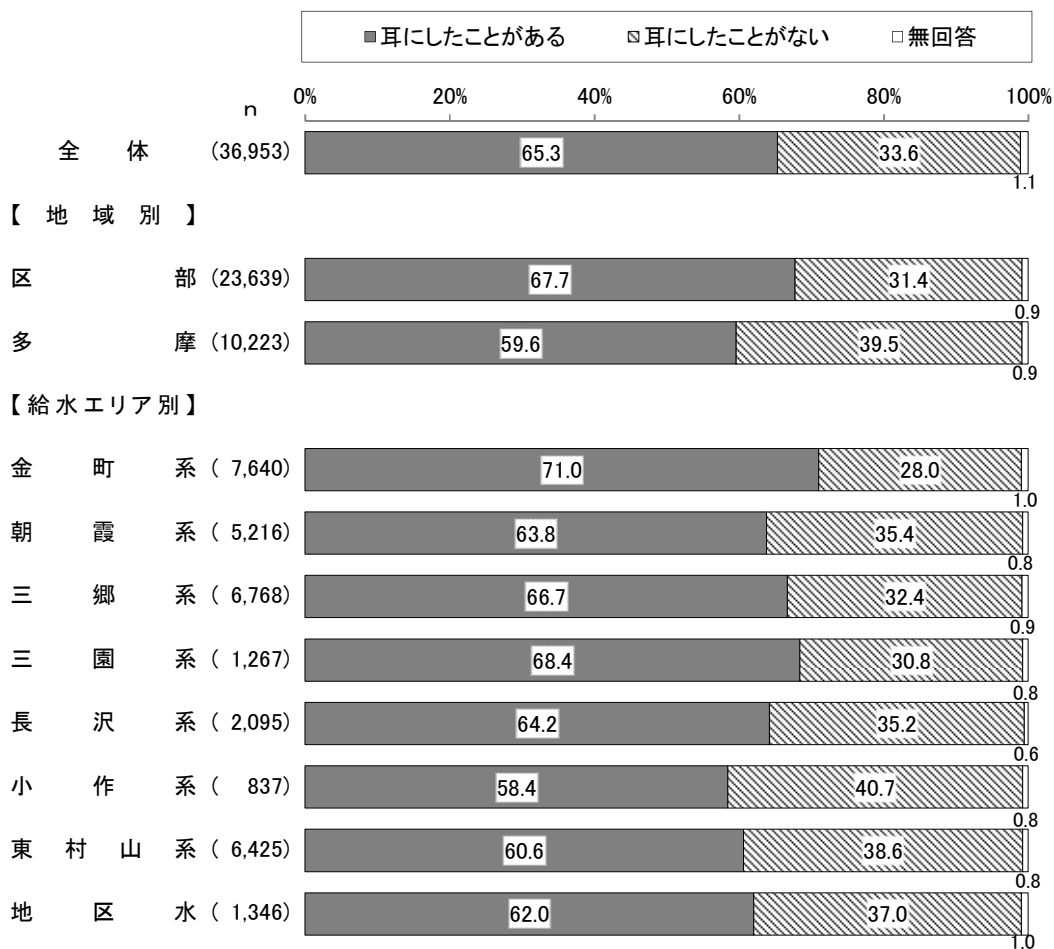
○性別では、特に大きな違いはみられない。

○年齢別では、「耳にしたことがある」は、19歳以下（42.2%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（70.6%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、「耳にしたことがある」は、おおむね年齢が上がるにつれ割合は高くなり、男女とも70歳以上（ともに70.8%）で最も高くなっている。

③ 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（地域別、給水エリア別）

〈図表2-3-15〉

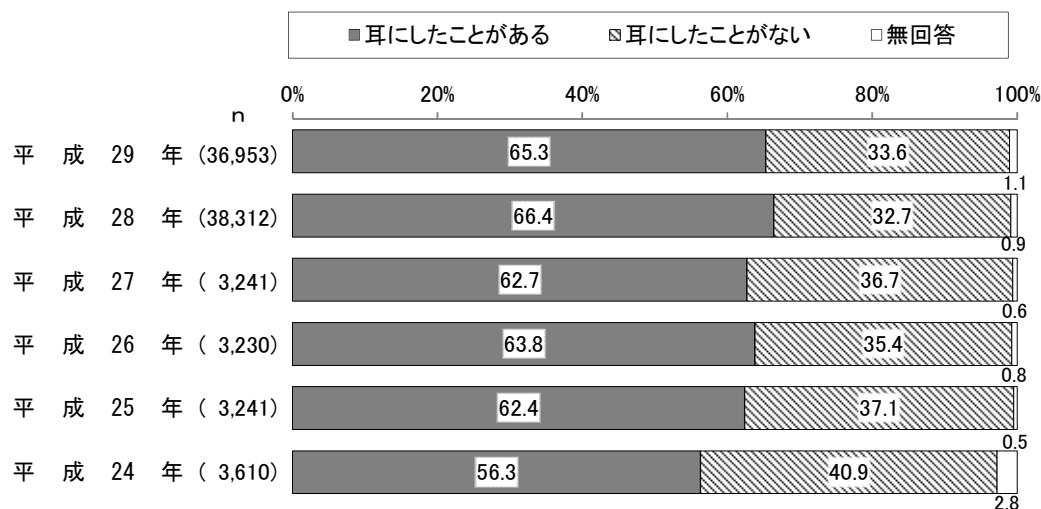


○地域別では、「耳にしたことがある」は、区部（67.7%）の方が多摩（59.6%）より8.1ポイント高くなっている。

○給水エリア別では、「耳にしたことがある」は、金町系（71.0%）で最も高くなっている。

④ 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（時系列：全体）

〈図表2-3-16〉



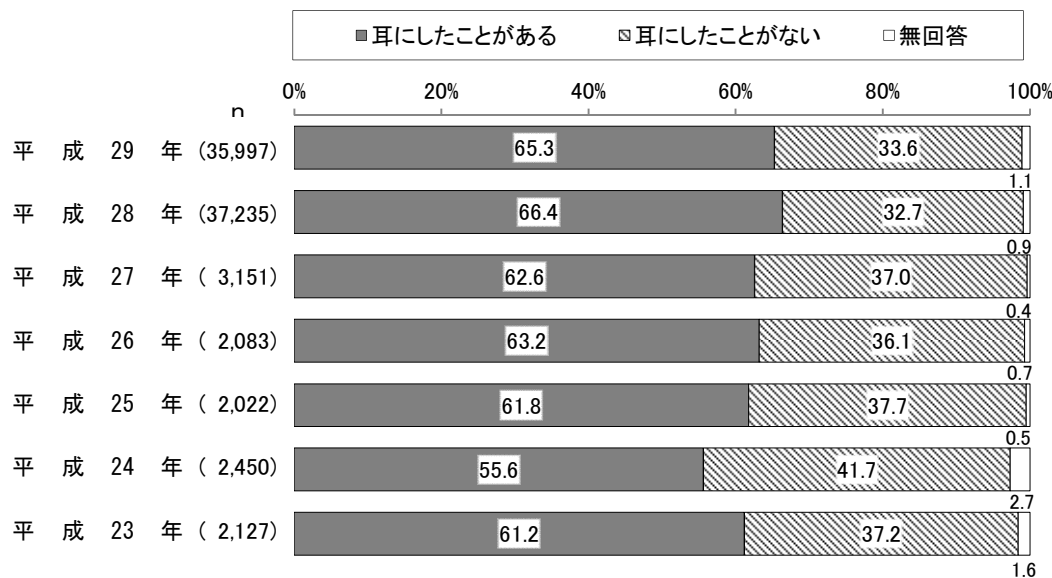
〈特徴〉

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向は、「耳にしたことがある」は6割強から6割台半ばに増加傾向となっている。

⑤ 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-3-17〉



〈特徴〉

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向は、「耳にしたことがある」は6割強から6割台半ばに増加傾向となっている。